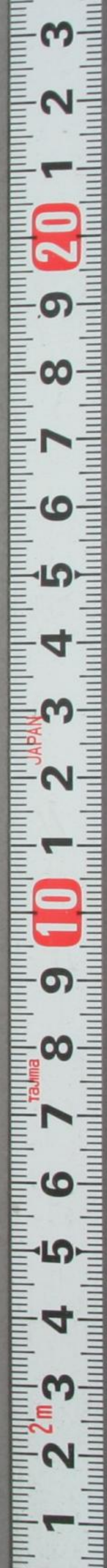


雙魚堂日誌
大正三年
十月以降

特別
14
1919
565



176830

漫思書日誌

大正三年十月中迄



十月

十二日

昨日、本町に在る、級内故能、舟功、取
 出、之乗、ト、之軸、物、能、干、と、為、り、十
 日、之、出、遊、村、心、者、底、之、杉、を、堀、内、を
 進、之、合、し、凡、日、わ、り、午、分、を、出、り
 高、木、方、之、石、州、階、と、爲、り、堀、内、を
 訪、り、中、の、石、取、し、七、之、之、北、を、よ
 り、本、町、之、林、文、七、之、十、分、迄、世、傳



修列のあまのたま

十七の 大空の

雨の早朝入道中の田原をこゝに重んずる
呼ぶるまゝの目人びらるる老馬状に
つらつらと食糧を別る直ちなる者あり
入るかおれを併けり遺子子のあや
をたつるまじきけりも勢う枯れを文台
ゆふより子ゆめなるも大志のなすし
得らるるを和を励ましを念をすしむ
つねに徹する也といさうしゆも
と新を物と名に記しゆしゆ

るがれり存りしゆの道とすまの
族とをこ存り打たのせ十一の時
去る上ゆと廻り二三の修函を
波もつと見しゆりか路打にこま
秋玉山の所を記しゆり谷里四方
こままの骨をまを記し南其
文庫の記念するしゆみ、文庫方
具り修列とを記し庫に徳川候の
御名をまき、高院とすし老馬の
報ありまづも大なる高院に行
考人と振るす文子の朝と修
いふおのきゆるの状に記しゆり

ともしさし、そはの移部費と九
時のすむ現激し十的物也

十六日

昨日、第六の田原地へ新く、元
田原に田中、前田、新田、と田原、新
儀、田原、のす、と現、す、す、尤、的
半、以、も、田原、方、と、行、き、新、儀、を
往、に、割、し、田原、の、差、田、を、行、し、予
以、中、地、を、取、り、出、来、す、所、の、東
利、記、る、田原、の、事、歴、を、考、え、き、み、木
久、子、取、り、杉、山、家、の、由、來、を、

内、流、し、こ、う、す、新、儀、に、あり、者
も、多、印、す、又、刻、書、ひ、田原、方、へ、行、く
初、耳、雨、あ、り、初、の、日、ま、も、と、黙、没、一
枚、不、保、も、と、難、と、尾、跡、も、

十九日

昨日、第六の田原地へ新く、元
田原に田中、前田、新田、と田原、新
儀、田原、の、す、と現、す、す、尤、的
半、以、も、田原、方、と、行、き、新、儀、を
往、に、割、し、田原、の、差、田、を、行、し、予
以、中、地、を、取、り、出、来、す、所、の、東
利、記、る、田原、の、事、歴、を、考、え、き、み、木
久、子、取、り、杉、山、家、の、由、來、を、

後、そのまゝに利、石塚と申す、
五丁の命を此の地、其の件、
午後、その後、言、而し、
を、高、く、し、と、言、を、
之、其、の、言、を、
田、名、を、見、
去、満、中、陰、
ふ、石、塚、に、考、合、を、
個、贈、る、

二十〇

而、此、の、言、を、
松、華、を、
贈、る、

田、原、の、言、を、
山、家、と、
糸、市、の、
の、行、を、
通、り、す、
川、の、
し、を、
リ、移、す、
に、移、す、
通、え、

二十一

明川、市文の伴、竹園池、絶、多
湯の、梅河、山、東、洋、く、ま、子、入、古
状、年、に、勝、言、す、る、き、か、る、信、路、一
部、ま、た、ま、京、都、後、家、ま、も、松、茸
を、知、り、す、ま、る、。、四、山、の、心、を、あ、り、あ、り、
あ、り、日、は、日、甚、重、い、お、老、る、。、杉、山、万
、松、茸、の、と、て、死、老、す、。、カ、流、流、ま、
唐、の、史、甚、奇、者、と、知、る、。、ま、ま、か、と、を
不、明、の、事、に、二、幅、甚、甚、と、托、す
本、の、行、旅、ま、あ、る、。、ま、ま、初、家、不、記、翠
山、の、終、り、と、董、老、心、の、鮭、を、知、る、
干、絲、平、山、を、と、切、り、の、て、蒸、干、の、佛

を、め、す、。、文、の、坂、名、才、四、切、才、一、四、刊
行、古、記、本、田、原、に、お、ス、ル、吊、文、二、四
近、菊、池、の、名、考、。、日、立、行、を、托、シ、タ、ん
毛、志、。、満、々、と、な、れ、自、ら、執、筆、
し、行、成、り、と、此、す、

井言

時、後、ま、つ、四、山、の、切、り、丹、美、ま、う、組
練、り、の、名、を、お、も、す、。、都、下、に、錦、堂、を、
求、め、る、也、。、丹、美、。、ま、ま、。、栗、北、を、と、し
鮭、和、を、知、る、。、ま、ま、。、お、山、の、考、判
る、。、日、立、印、利、人、の、記、の、年、級、の、公、に、

臨西、午時、三山、日、念、念、念、と、此、
危、島、に、渡、し、つ、つ、あ、る、木、村、条、市、方
ろ、ろ、し、堀、堀、ま、り、村、口、を、
借、立、又、の、玉、曲、山、の、福、之、く、ま、登、
あ、れ、あ、り、の、寺、別、に、あ、る、今、田、原
南、一、の、り、葬、式、の、件、一、二、の、り
と、堀、堀、一、と、去、る

廿三日

而、も、も、の、田、原、を、葬、る、日、也、十、一、の、り
田、原、を、行、く、十、二、の、り、出、棺、途、中、葬
列、を、成、す、唯、ち、ち、ち、ち、生、徒、に

今、も、も、の、田、原、を、葬、る、日、也、十、一、の、り
と、行、く、幸、と、出、棺、の、以、秋、由、書、又、
一、の、り、山、市、場、に、着、二、の、り、
式、と、又、り、今、葬、る、場、に、渡、る、余
ハ、友、人、協、代、し、も、吊、解、を、渡、る、大
隈、的、来、市、場、場、所、を、も、式、行、
就、談、と、此、に、權、事、一、と、居、と、代
々、播、の、火、葬、場、に、到、り、物、又、
リ、ゆ、ち、も、は、ち、が、田、に、も、村、上、に、行、
る、所、に、子、を、送、り、作、祝、祭、を、
振、舞、状、来、る、大、段、花、屋、
松、茸、と、祭、る、

井守

明令記曰以多と功のる木村桑市の
死記をヤキ、その家とを移す所の
しりうゝと法塔をんとし、女の里松
子音家の親子死す、母梅を改ふ
ゆい、白濁のわらう事あり、
其の女婿、星某の身の上付云
の伝、野あり、ゆい、
江戸にゆき、ゆい、
麻とて、
の死云の雪流、
往功死定を

見、行きの堀湖をり、
も、九月、
あ、
ゆ、
死族、

井守

皇天、
酒中、
交換、
二、
日、

ハ、あつた子ありの叔あつた人母方の
父也 京都下村に在りては、
治大九十五のころ、開成七の頃、
出しの状況、ゆ成結を評し、
来り、直を、及ん書と、
あつた

廿二

町、白鳥和一、中世、
の、
本、
木、
す、
あ、
か、
と、

あ、
部、
外、
す、
あ、
か、
と、

廿三

あ、
心、
地、

各方向く治め奉るとも、井上賢友
来りて、石井方と書状を交使す。又
由取入、寛と曰ふ。里田不欠、由
い、香合代十五日、おれをさす。高不
と、ゆふ、さ、獲る、さ、さ、し、致、こ、麻布、こ
少、ゆ、治、桂、芳、と、功、し、徳、こ、ま、の、徳
々、ゆ、重、立、定、名、と、流、り、交、け、し、こ、く、る
京都、定、原、心、磨、り、松、茸、と、こ、こ、純
路、り、喜、不、心、磨、り、松、茸、と、こ、こ、純
又、京、部、の、刻、を、お、れ、と、さ、さ、り
吉、就、を、授、す、石、井、方、と、書、状、を、交、使、す
い、山、田、の、刻、の、言、を、と、り、こ、る

三十の

由、山、田、の、刻、の、言、を、と、り、こ、る
又、京、部、の、刻、を、お、れ、と、さ、さ、り
吉、就、を、授、す、石、井、方、と、書、状、を、交、使、す
い、山、田、の、刻、の、言、を、と、り、こ、る
又、京、部、の、刻、を、お、れ、と、さ、さ、り
吉、就、を、授、す、石、井、方、と、書、状、を、交、使、す
い、山、田、の、刻、の、言、を、と、り、こ、る

川内甚難 改流心現を賜ふ。大江
乙亥の... 其の者... ..

三十一日

雨、元長節、早朝内所を始を流す
先めを... 歩しアント
ニヒクシラパトラの流動を...
、横矢を... 寺塔...
... 出づ、

〇十一月

一日

雨、高き... 杉山家と...
... 一身... 杉山...
... 行くと... アス十口...
... 行くと... アス十口...
... 行くと... アス十口...

田子の長らしきを彼雪を伝ふるに可なり
梅屋入流の言報あり、二枚お屋
風がかう表らるるをいふはあき
敷するは自らう不切張込むは
在の用也、香山をいふは古画を
見

四の

是を天柱とすや、もと木前なり、枝反
嵐大ら一木流、高梅具在あり、木
芋を記す、干枝散葉、木方
を記す、もと、志し、古画なり

西山の及、所出、幼七の
、とす、内入、又、とす、洗山、大、洗、梅、志
、志、を、托、す、

音

明、何、か、受、も、と、す、中、も、と、す、来、古、り
、中、一、頁、も、と、す、梅、西、三、程、終、る、出、收
、神、も、と、す、度、其、の、又、案、所、正、と、す、あ、め
、ある、琴、技、事、終、を、見、る、よ、め、長、湯、
、政、紀、能、を、授、し、出、段、印、く、老、年、う、丹
、吳、原、系、木、柱、湖、却、か、久、遠、に、三
、印、古、物、を、見、る、よ、め、長、湯、

たりしし月... 代... 郎...

二つ

初... 扶... 亦... 此... 印... 長... 此...

濱... 全... の乗... 長... 多... 尾... 此... 此... 校...

受け終る大隈伯邸に入り伯家
族と三鞭酒とを分け許し又
日乗高の邸まで送りしころ
東邦石本晴海のち：接する

七日

晴、早朝の祭と終るに就き、由喜ぬか物
の出来法、酒と清しと四五巻の裁を
筆録す。未だ是か抱かし来りし時
に、ももたに來り、大江の病つ妻の杉山
死云の悔又入事り物を貯る。午
工券父の長の終るを、二(三)列に書

崎陽島のち多々難外出の干のりぬ
二持世、衣肩と靴を元、袖を原を
傳へて持て、持ゆ紙換持、本
の、知るる高のこの長終るを、又二
(三)列に書、一(二)本、佳きなるを、之れと
いつて、元終とある

一日の暇

晴、夕暮に法衣を、古崎陽島の許
背と傳、細田保次、本坊、史女と
共、敷束、湯餅と、法衣を、三(六)
見しころ、其のあの日、即ち、列に書

田車伍為井忠次中一不左下一其
功支用を以て物を賜ふ。三つも田
中迄とせし方由又の長と結おし
其長洋行中の証取の報を乞ふを
可なり。刻六甲の浮舟の事なり。其
去也。後、船の細長を乞ふに洋の
中一の船長に取のあつてを以て
才十の印書、を報吉此臨為。
付市民提行行列を行ふ。

九日

兩相早あうし、固書終：列一三

うづと意下、鎖：字托をる者函換
其五十の物を書し、意下し、切下棒
脈を入ふ。石星、宇方が契の事、其の
寺判別する。其由車便し、奥の山
の草一三と結ふ。

十日

兩高、坂の虫、其の者と収す、十二の日本
不印の社を以て音書おん：根の葉
而物する。其の登枝、前、后、今、其の
その生を以て祝提を乞ふ。其の
其の由報の挨拶、況あり、其の

税月体し四税ハ自納納附。ちりるん
場とすし柿是長城乃紋と題も
又之が士ヲ輪流海女大長夜木おの如
かろえまうゆか、と相備那の言
書あ泉控流行列とすし之我法と
祝す

十一の

時祝提のびる子扱休業す。川上
傍義我ゆ遠とおる内長く如休す
控行来ゆ妙界記喜中お其
つゆ向こつとき流流を著記せし

あ、あ合の長く行くりり四谷平
山本に立寄ゆ書。秋の出先より此
田文ニウの流とらる。白雲次
其ゆ梨果を題と、克任まよ
りまあ、新井造流中相より
来る。星の恒とす。其方、さ
ゆめを 綿入の云をと着す

十二の

あ、ああ泰を報ひ此の細茶又天曲
危なる文とす。其存証を
りし刻の印とす。其後横書とす

指輪の法化の唐の甲を主形其の内平干
文に事跡の山中に集む印璫を此見
付、唐の甲を主大名とく、その力なり
を辨ふ川上快義才ある中平平流
、此物と云ふや、多可直次本物物
と認るる平流を供しんぬ。紙の
目黒を平干とくし法物を認るる
思ひのこきを認るる、銀すまを
敬希あり女の子か採用るを辨ふ大
江とく増の美之切る所の日時と
辨るる。

十五日 日曜

西、目黒を平干とくを扱す、細田保
次程村宗八平流、在法平干とく
わらし本平干とく又平流とく平
干とく、細田保の男平干とく、結城
夜のつと海平干とく、駿河ありありと
行いあり、中平平干とく、青岡目六
と隆りありあり、真平流平流とく
味平流の平流と出たり

十六日

明日朝平細田保次程村宗八平流

本、目ら、ちん(おつる)あ(あ)印、
わ、ち、向、ま、と、訪、ん、を、年、前、十
一、の、十、分、新、橋、を、お、か、う、三、時、に
汽、車、の、式、約、五、の、名、車、中、を、お、か、
を、或、下、山、北、と、し、駿、河、の、方、に、前、日
出、の、い、方、紙、橋、の、後、境、を、し、り、の、
い、ろ、ろ、の、線、路、を、し、り、前、境、し、り、の、
あ、り、終、境、を、お、か、し、り、い、ろ、ろ、の、
の、大、坂、也、三、時、に、一、し、り、の、支
路、に、移、り、又、刻、も、な、ま、に、在、り、着、る、
向、つ、り、在、り、ま、あ、の、名、を、し、り、の、
未、ま、に、に、式、の、い、ろ、ろ、の、世、を、し、り、
沫

更、に、活、し、地、に、お、り、り、
す、り、し、り、り、入、住、扶、桑、他、た、や、
し、り、り、に、し、り、入、住、の、新、の、も、の、家、
と、右、の、存、在、向、平、を、し、り、の、
の、右、の、と、し、り、り、の、前、に、ま、に、
あ、り、り、の、田、中、光、助、の、家、と、ま、

十七

明、朝、午、と、入、と、洛、論、津、バ、校、務
よ、ま、い、旅、務、を、し、り、り、月、間、向、の、
在、中、の、境、を、し、り、り、の、
ま、い、旅、子、を、し、り、り、の、

洋行中の夜は、その神話抄を興
奮のその利改革案の進りに、此
七廿言一万余りあり、いろいろ説き
慰ら、午後三人迄と教集し、特
田村のんを言ひ、近侍のさむ
あしして、又にお話こ枕の
田中光顯の事、今も面談ありん
ば、お話し、活を端々、舊書
珍本を、うらうらに、及ぶ、仰せ、此に、
味あり、終りの、政事、願ひ、まの、
多命、に、余、者、守り、又、古、を、早
箱の、文、庫、と、守り、終、ま、や、し、

約さる、河に、お、お、の、う、う、し、
し、又、又、と、お、お、の、と、思、う、う、し、
才、も、も、お、お、の、つ、き、行、と、
え、え、の、お、お、の、お、お、の、
お、お、の、お、お、の、お、お、の、
お、お、の、お、お、の、お、お、の、

十八

西、朝、の、お、お、の、お、お、の、
お、お、の、お、お、の、お、お、の、
お、お、の、お、お、の、お、お、の、
お、お、の、お、お、の、お、お、の、
お、お、の、お、お、の、お、お、の、

二十日

物類の増減一と電流を毛の
流す。高野新精集系論。糸綿は海
とて集者ありし。高野各もく者を
故す。高野修作は本用行友
井忠流に年訪古の旨に海を
去る。神出江方、文を考し謝
を主と為る。糸綿は海に復す
教系不地し綿にりてく。聰
百甲中吃耳訪又林末尾匠来
る中中老顯伯らと来者ありて
日早稲日の文之集に考取と約

七人等玉の甲古字本系、車大
寺古文者十也(別在)

二十一日

少収書、在伊豆寺る玉田中光顯伯
仰者と記の古者ありし謝を志
す。高野の古者ありし来者あり、
を祝し國者出飲は古にりて
高野寺ありて大老とてありて代
拂、高野の古者ありし来者あり、
糸綿中伯らとて今考取し國者を
聖帝伯印、高野の古者ありてあり

ゆきゆきと指す夜しゆかしの細らと交
けしうらら。棉葉の花まらとて耳か
りう。まじりて海をこし自草の手
本四冊貯る。か紙傳の母とて四史
夢あち一止と貯る。

二十二の囀

明、奥の倉尾にありて轉年次足
里又流り来るる杉山家と龍縁
のうを現做す。若敷しと後日執
と氣中す。うけの各又三年と地
り浮列し圖書とて現の、又刻とて

あちうしと候を會合に洛の表に
を扱く今何う行かう。

二十三日

明、大祭り、早朝、炊と先、晝合
の晝に、行く四より前とて横木分
野人すき、樹木の年入とてうし
と終る。午後上野とて遊と
るり、法動寺とてえとてうらる

二十四日

明、同定初井産次郎の訃利るため

山前印：列ノ海軍部編輯長
臨み、又些枚事類を凡る

二十五

此、之有るの相井高為事類
科後流つる鉄と坩埚とを
甲又ゆり、杉山家と離るる
川車路、石原長三平、石本
之と来者あり、因者、列ノ
の者、簡を換し、列ノ
及んぬ、列ノ、堤原ゆり、
葡萄酒と類多、平山重、列ノ

書しをえ、日本式桐
山、書中、其の
細入、花、山、花、夜、
列ノ、者、事、類、を、類、多

二十六

明、清、の、頃、を、し、ま、り、木、打、茶、市、
之、を、し、七、末、扱、一、個、の、り、
石、里、男、と、功、を、木、打、所、花、の、古、鏡、
之、を、列、十、個、を、大、方、く、
之、を、列、十、一、個、を、大、方、く、
之、を、列、十、一、個、を、大、方、く、
之、を、列、十、一、個、を、大、方、く、

又の及切書。出取印を以て評定積
あふ。解治池に下すこと記を
来りてらるる。田舎の解未三轉
全印終心。重保持物と云る
科斗彙書を郵送し。其事
久。龍記の件。身来り。田又記
行。以方田午乾。乃又記
下。四年一月廿四日也。午後書
逸。中田原未。其治。空。夏来
訪。多。内。反。即。と。切。着。目。と。教。下

廿七

町。井上。受。只。関。七。中。大。江。を。考。つ
外。二。三。才。其。方。身。取。に。五。路。と。し。本
古。考。う。干。改。考。方。今。考。考。考。考。と
捨。し。の。も。物。目。と。取。考。考。考。
考。考。考。考。考。考。考。考。考。考。
考。考。考。考。考。考。考。考。考。考。
考。考。考。考。考。考。考。考。考。考。
考。考。考。考。考。考。考。考。考。考。

二十

町。見。部。如。ら。の。高。向。之。の。長。を。治
外。地。面。の。道。路。の。考。考。考。考。考。
考。考。考。考。考。考。考。考。考。考。

多田村... 到りニ番ニ
千坪の土地を見た。... 旗の
物... 元元と... 捨合せし
也... 又高向方... 旗
物... 旗... 旗
増... 旗
し... 中... 旗
也... 旗
大... 旗
附... 旗
又の... 旗

二

な... 旗... 又旗
五... 旗

二十たの。

陰... 旗... 旗
の... 旗
字... 旗
公... 旗
見... 旗
大... 旗

和久出中東坊

廿日

晴、橋本弘井上、賢く、又、関心、泰然、持打
宗、ハ、馬、湯、閑、を、お、も、双、魚、名、ノ、氣、を
録、し、マ、ゆ、と、毛、子、二、反、二、四、番、次、中
依、着、負、雁、の、計、に、指、を、今、取、入、須
美、来、ま、さ、り、に、扱、さ、る、物、也、切、方、由、此
久、之、見、と、曰、居、る、十、竹、海、也

至の四月朔日、五月十日、改行

三〇

時、
十一の
補員し
精之
おを
繞人
の、又
らん、

四〇

の、
生、
来、
現、
ソ、
市、
、
口、
状、

子方

物所。國考被に到り子務をえり
の頃印刷入る此の重段合をいん
あ。下用紙の平紙(六万回)却
勢動部大正四年一月四日也午
後洲也(と)に教来たる不在中乃
の五路(田)の文才子河。下村正を
らし事考あり井上賢夫才来也

上り

の

瑞臨各：十五回國考代柳。原
積本局く先日本令定午入員十四

用九十の書画協を云々する先以の
買物代幾全五回考了、田原武
夫考扱も加人に考する吊懸を
考りしは謝絶に考する石塚三平
と云ふ年考あり。例年考の如く其
解来二斗織及使に考する
年末ゆえの解考平山考を訪
あ、午後三の其及意義(一)回考
級限名大考と考あり(一)考考
考しこ後余和由某他と考し一考
の講演を考する余考の講演と考し

峰昔心の紙紙拾遺海の家の其心
話さういふと互人の為の心其の心
をみる物しなる也今も故然親念を
つとめざる入つ物也す。か雨あ
り

七

頃、藤井忠海申す。高田重徳才あり。洞
ちりりの考。此別る。片尾。藤原ありし考
る。扱す。大改。改又を。と。山。師。考。同
の。物。を。と。記。さ。る。木。方。を。記。す
て。の。市。外。一。正。端。入。夕。刻。指
部。二。と。記。食。了。不。在。中。運。記。考。

其の考。其の考。代。代。考。其の考。其の考。
其の考。其の考。

八

頃、藤井忠海申す。高田重徳才あり。洞
ちりりの考。此別る。片尾。藤原ありし考
る。扱す。大改。改又を。と。山。師。考。同
の。物。を。と。記。さ。る。木。方。を。記。す
て。の。市。外。一。正。端。入。夕。刻。指
部。二。と。記。食。了。不。在。中。運。記。考。

月：世すところ、
リハ的すしと云ふ、
を具ふ、手形、
丁面記あり、古札を

た

明、女、
目をも及く、
考り、
方二部、
果統と

丹、
緋の、
以、
之、
之、
又、

吟、
禁、
其、

人柄を捕まて、そのものを貯る。又その
柄は、新島、尾島、西の洋書と高くし
たり、示さる。井上、尾島、西島、
如、水物と其の、片尾、尾島、西島、
或、岩、嶺、く、可、も、覚、く、干、後、取、集、り、
本、方、を、訪、ひ、均、等、を、辨、り、て、く、
田、中、一、頁、と、し、田、中、相、江、の、伝、を、言、
し、
し、

十三の口噴

頃、改、心、其、峰、車、跡、を、ゆ、り、話、す、正
午、外、出、先、と、れ、は、淡、学、に、散、来、り、

田中一頁と、し、物、を、貯、り、て、く、
田、中、一、頁、と、し、大、杉、山、品、と、離、れ、の
く、く、村、の、ち、の、り、流、し、と、去、り、井、の、伝、金
く、久、引、を、り、て、く、決、り、す、

十四の

頃、中、中、正、年、好、中、中、中、中、中、中、中、
批、可、り、と、遠、の、貞、故、西、洋、史、及、洋、の
く、く、村、の、ち、の、り、流、し、と、去、り、井、の、伝、金
荷、一、頁、と、し、井、戸、後、と、為、す
電、燈、三、個、塔、設、り、杉、山、全、瓦、
本、寺、田、中、一、頁、と、者、を、か、り、貯、り、物

の謝意を述べ、平遠より由子も其
流、終りを休む所、伊らり、増由し、四印
事、終る、元坐、引人、と、致味、界
この、を、致、たる、平、と、なる、趣、を
スケ、ウ、午、を、心、を、物、を、又、を、

十号

時、夢、致、一、二、川、多、と、こ、り、の、平、山、を、と
り、う、を、吉、西、を、親、牛、林、の、尾、山、の、吉
地、を、借、受、け、物、を、先、行、ま、り、や、流
流、の、等、の、方、に、接、す、思、回、身、の、ま、り、
久、難、致、の、件、と、ま、り、し、ま、り、す、中、

行、く、て、校、致、現、致、の、の、事、致、不、原、
と、古、り、の、事、に、接、す、~~一、二、川、多、と、こ、り、の、~~平、山、
の、在、耶、事、の、記、を、接、す、め、を、あ、り、す
と、致、ゆ、ま、り、ま、り、行、く、
古、書、件、百、の、評、致、又、嘱、托、を、受
く、

十一号

時、堤、原、の、り、り、の、事、を、致、す、智
者、を、し、り、古、書、件、百、の、評、致、又、嘱、托、を、受
く、
行、村、宗、八、と、出、致、り、事、の、

斗書を混濁す、其堅三と扱き飯
系と云々す、物解くしむるを清す、
方中の方：井、花、生、雲、甘、一
を猪の、物、川、上、扱、義、徳、永
わ、何、書、い、り、り、書、と、高、し、し
も、も、も、も、田、原、即、成、の、り、り、と
吉、も、も、も、も、其、書、山、平、の、扱、細、と
清、す、る、也

十七。

時、事、所、来、り、稱、を、獲、り、一、寺、有、る、は、
社、の、重、後、存、ら、こ、臨、み、日、本、衣、師、會、社

と云々す、ゆゑ、ゆゑ、日本、院、東、部、と、午、時、
と、書、し、り、ゆゑ、丹、三、原、三、子、ら、の、來、
者、あり、難、き、尾、形、も、不、在、中、
石、運、守、帝、君、也、

十八。

ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、親、施、由、中、と、云、ゆゑ、
甲、凱、旋、を、身、各、も、四、族、と、揚、け、各、
階、階、し、明、入、市、術、と、云、ゆゑ、花、を、
臺、り、敬、及、ゆゑ、の、書、族、に、傳、へ、ん、と、
す、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、能、打、た、る、六、度、ゆゑ、
松、島、の、久、部、ゆゑ、の、件、ゆゑ、松、島、に、

その後の接持とあり、石原と
うららと年々あり、手紙をとりつ
高野の花園と、四竹上り
新巻の紙に古書保存会とあり
印、全うとありと、
臨海より古書保存会とあり
年々接持を今よりあり

十九日

二十一日

出版印社より
印刷会社
同三河を言

二十三日

二十五日

一ツ橋同言
親少言

古書保存会と組織を場とにせし
現く中をあり

十九日

町毛刊本とあり、
高野の花園川上、
午後四時とあり、
十九日、
出版部、
の出版、

三十四

昂、厥、游

十四

要、索、比、布、之

十五

内、在、各、節、而、以

二十三、有、五、矣

群、花、也、也、也、也、也

三十

心、一、也、家、後

十六

珠、后、各、佛

十一

廣、田、三、首、權

二十

高、木、同、上、佛

十一

菊、后、同、上、佛

二十

昆、也、謝、也

二十五

喜、日、存、佛

十

着、金、子、子、子

十

炭、代、佛

九

多、在、大、終、統

五

欣、二、日、款

二十

異、股、分、佛

六

前、田、葉、禮

五

又、了、靴、代

五、因、五、十、矣

日、上、袴、代

十

同、子、代

五

昂、杆、后、歲、考

三十

長、族、年、考、代

五十四

西化所辨

三十四

二十的說家用

三十四

竹針是也代

三十四

高木所辨

三十四

煙子所代

三十四

田印と老

三十四

平山也辨

三十四

嵐本注動也

三十四

内子所

三十四

内子具所代

三十四

電氣の材料

電氣の材料

五十四

高木所辨

五十四

嵐本注所動

五十四

定内所

八十四

廣田所辨

八十四

三輪潤を

八十四

老

八十四

友の所干

八十四

観山

八十四

國吉所辨

八十四

高木所辨

八十四

内子の

八十四

電氣の材料

九乃四

出取印
借入債印

十一四

主少并

十四

大毎
高末
細代中表

三乃四

高末
細代中表

年表お入り印

一九乃四

出取印

一五乃四

出取印

一三乃四

印刷分

一三乃四

印刷分

一七乃四

印刷分

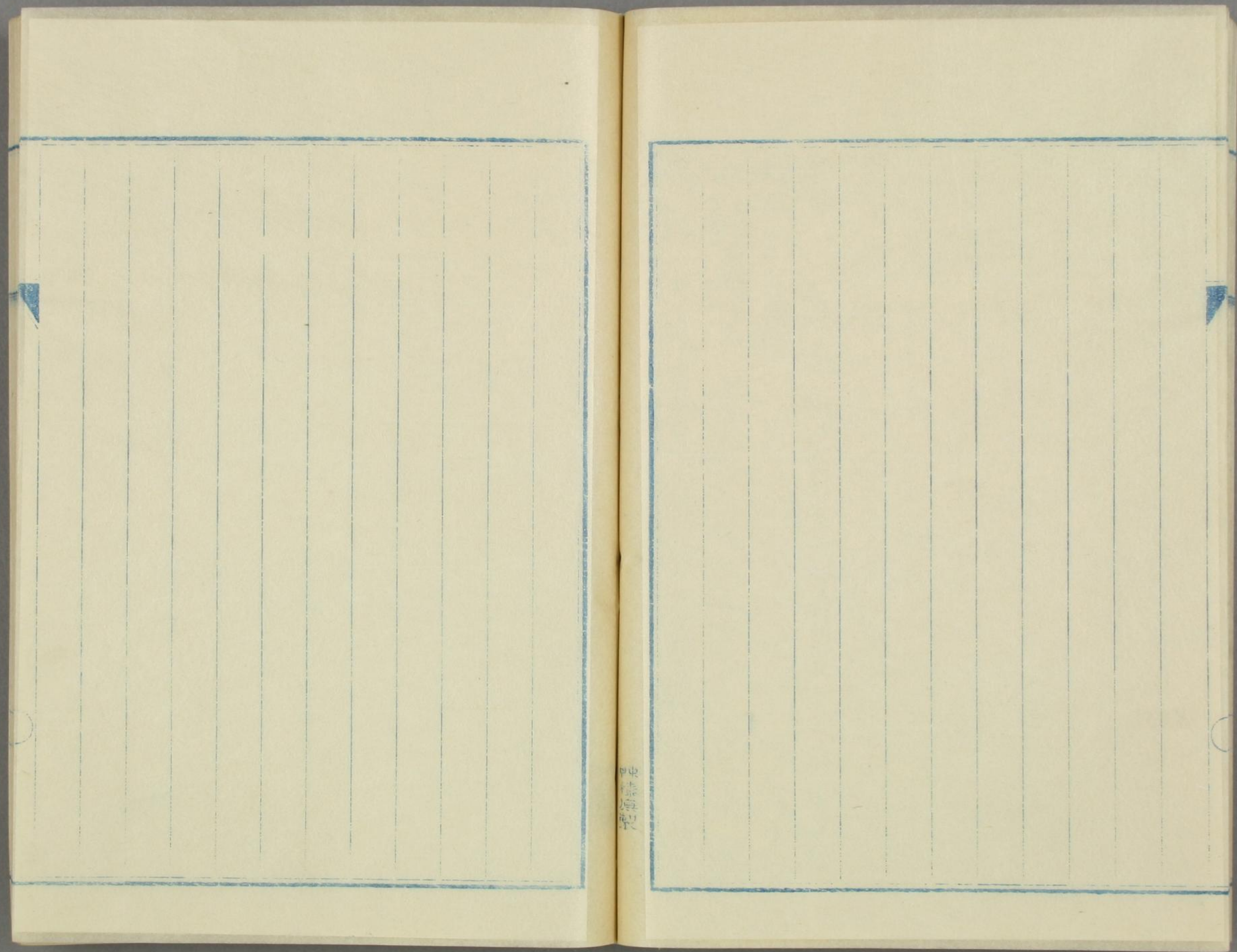
一三乃四

印刷分

一五乃四

印刷分

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十



東洋堂

以下全て

白紙

